

全国英語教育学会第42回埼玉大会  
2016年8月21日

# 中高の英語指導に関する実態調査 —教職経験年数の違いによる指導実態と意識の違い—

酒井 英樹(信州大学)

工藤 洋路(玉川大学)

福本 優美子(ベネッセ教育総合研究所)

発表代表 酒井

# 本発表の概要

## 1. 研究の背景（工藤）

- － 教職経験年数を取り上げる理由

## 2. 研究の目的（福本）

- － 調査の方法と時期
- － 調査企画・分析メンバー
- － 調査の対象者
- － 分析対象の質問項目

## 3. 分析結果（酒井）

## 4. まとめと示唆（工藤）

# 教職経験年数に注目した理由

- 東京学芸大学. (2016). 『文部科学省委託事業「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」平成27年度報告書』<http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/report/>
- 854件(都道府県:41件、市区町村:813件)
- 小学校外国語教育に関する法定研修

# 教職経験年数

- 中・高等学校 教員研修 コア・カリキュラム(試案)
- ◆目標 教職1～3年目
- 生徒の現状・特性や学校の特色等に応じた授業を実施するための英語力・指導力を向上させる。教職の1～3年目の時期は、教員のキャリアステージの入り口となる時期であり、英語教員としての使命感を養いつつ、実践的な指導力の基礎を固めるための非常に重要な時期である。研修を通して、教員自身が日々指導をする生徒の現状・特性や、勤務する学校の特色等を正しく理解することは、生徒や学校の実態に合致した英語の指導をするためには不可欠であることから、特に初期においては、校内研修の役割が重要とも言える。校内研修及び校外研修を通して、英語教員として必要となる英語力・指導力の基礎固めをする重要な時期である。自分の授業映像を定期的に記録しておき、映像を視聴して授業を振り返ることで、授業で自分が用いている英語の正確さやスピード、ティーチャー・トークとしての適切さ、各指導技術などを自己モニターすることができる。このような授業映像ポートフォリオを初任の時期から定期的に保存・活用することは、上記の目標の達成におおいに寄与すると考えられる。

# 教職経験年数

- 中・高等学校 教員研修 コア・カリキュラム(試案)
- ◆教職4～9年目
- 英語力・指導力を計画的・継続的に向上させる。また、地域のリーダーとして、授業公開を含む校内研修等において中心的役割を担うとともに、学校内外の連携・協働を深める。学校業務や英語授業にも慣れ、英語教員としての授業スタイルが徐々に定着してくる時期であるが、経験年数としてはまだ浅く、今後も習熟度が異なったり、特別な配慮が必要な生徒に英語授業をし、また、勤務校が変わることで、学校の特色等も大きく変わる可能性もあるかもしれない。自分の目の前にいる生徒のみならず、いかなる生徒に対しても、英語教育のプロフェッショナルとして指導をすることができるよう、自身の英語力・指導力を計画的・継続的に向上させることに意欲をもって取り組むことが重要である。勤務する学校や地域の中堅リーダーとして、授業公開を含む校内研修等に受講者としての立場だけでなく、企画・運営する側の立場にも身をおいて活動をすることで、英語教員としての学びを深めていくことができる。学校内外の英語教員との連携・協働を深めることで、経験年数の異なる教員や校種の異なる教員などとお互いに学び合うことにより、英語教員としての成長を続けていくことが期待される。

# 教職経験年数

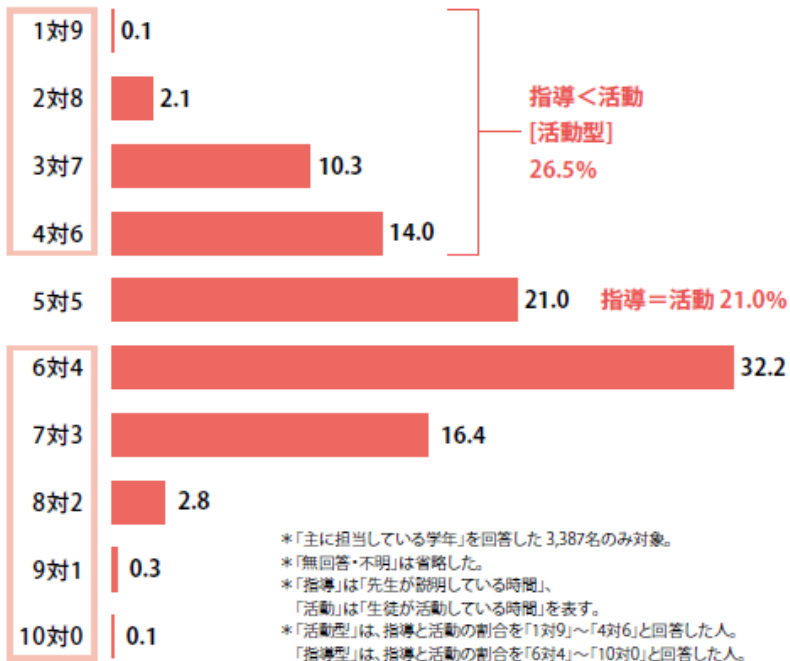
- 中・高等学校 教員研修 コア・カリキュラム(試案)
- ◆教職10年目以降
- 英語教育実践の専門家として、高度な英語力・指導力の習得に努めるとともに、メンターとして、若手・中堅教員等を指導しながら、自らも成長を続けていく。英語教育のプロフェッショナルとしての高度な英語力・指導力を有することが内外から期待される時期であり、その期待に応えるためにも、英語力・指導力を向上させるための研修により積極的に関わっていくことが求められる。異経験年数のグループによる授業観察や授業実践においては、若手・中堅の教員に対して範を示し、メンターとして適切な助言を与えることで、自らも英語教員としての学びを一層深めていく。これまでに自分が受けてきた研修内容を保存・記録してきた研修ポートフォリオ等を活用して、英語教員としての自らの成長を振り返る機会を設けることで、自分の英語力・指導力における新たな課題を発見し、今後の英語指導につなげていくための研修計画を立て、実際に実行できることを目指す。

- ・教職経験年数による研修が行われている。
  - ・教職経験年数によって重要だと考えられている内容が異なる。
  - ・しかしながら、研修内容の違いは顕著でないという実態がある。
- 教職経験年数の違いの実態を明らかにし、適切な研修内容を検討する必要がある。

# 指導と活動の割合

図1-2 指導と活動の割合

指導対活動



\*「主に担当している学年」を回答した 3,387名のみ対象。  
 \*「無回答・不明」は省略した。  
 \*「指導」は「先生が説明している時間」、  
 「活動」は「生徒が活動している時間」を表す。  
 \*「活動型」は、指導と活動の割合を「1対9」～「4対6」と回答した人。  
 「指導型」は、指導と活動の割合を「6対4」～「10対0」と回答した人。

(%)

表1-1 指導と活動の割合 (年齢別)

	30歳以下 n=524	31～40歳 n=1,160	41～50歳 n=1,241	51歳以上 n=429
指導<活動	22.1	25.4	28.4	29.4
指導=活動	23.9	20.0	21.9	17.7
指導>活動	53.4	54.0	49.3	51.5

\*「主に担当している学年」を回答した 3,387名のみ対象。  
 \*「30歳以下」は「25歳以下」「26～30歳」の合計。  
 「51歳以上」は「51～60歳」「61歳以上」の合計。  
 \*「無回答・不明」は省略した。

第1回中学校英語に関する  
 基本調査(教員調査)  
 (ベネッセ教育総合研究所)

- 2008年実施調査: 公立中学校の英語科主任に回答依頼
  - 教職年数が長い教員の方が「活動型(指導<活動)」が多い傾向
- より様々な英語の先生ではどのような実態か?

# 研究の目的

本研究は、ベネッセ教育総合研究所が実施した「中高の英語指導に関する実態調査2015」(ベネッセ教育総合研究所, 2016)で得られた回答を**教職経験年数の違いに焦点をあてて**分析した結果を報告するものである。

- ・ベネッセ教育総合研究所. (2016). 『「中高の英語指導に関する実態調査2015」ダイジェスト版』. <http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=4776>
- ・高木亜希子・加藤由美子・福本優美子. 「中高の英語指導に関する実態調査—指導に関する教員の意識に焦点を当てて—」



# 調査の方法と時期

- 郵送法による自記式質問紙調査
- 2015年8月から9月に実施
- 調査項目（ベネッセ教育総合研究所, 2016）

→ベネッセ教育総合研究所 HP

＞グローバル教育研究室 ＞調査・研究データ「中高の英語指導に関する実態調査2015」にて公開中

# 調査企画・分析メンバー

- 根岸 雅史（東京外国語大学教授）
- 酒井 英樹（信州大学教授）
- 高木 亜希子（青山学院大学准教授）
- 工藤 洋路（玉川大学准教授）
- 重松 靖（国分寺市立第二中学校校長）
- 木村 治生（ベネッセ教育総合研究所副所長、東京大学客員准教授）
- 加藤 由美子（ベネッセ教育総合研究所主任研究員）
- 福本 優美子（ベネッセ教育総合研究所研究員）

# 調査の対象者

- 中学校
  - 各学校最大3名の英語教員
- 高等学校
  - 各学校最大6名のコミュニケーション英語(基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれか)を担当している英語教員
- 回答率
  - 中学校教員1,801名(回収率 22.7%)
  - 高等学校教員 2,134名(33.6%)
- これらの回答のうち、教職経験年数の違いに焦点を当てて、中学校教員と高等学校教員の回答を分析した。

# 調査の対象者

- 教職経験年数の項目に無回答であったもの(中学校23名、高等学校33名)を除き、中学校教員1,778名と高等学校教員2,101名を次のように群分けした。

	5年目 以下	10年目 以下	20年目 以下	30年目 以下	31年 以上	合計
中学校 教員	455	345	401	423	154	1,778
高等学校 教員	391	294	533	587	296	2,101

# 分析対象の質問項目

## • 指導方法

Q: 授業において、次のようなことをどのくらい行いますか。

・よく行うーときどき行うーあまり行わないーまったく行わない

- |  |                           |
|--|---------------------------|
| 1) 教師によるsmall talk<br>(英語による簡単な話)        | 12) ディクテーション              |
| 2) 教室書本文の和訳                              | 13) 英語で教科書本文の要約を書く        |
| 3) 文法の説明                                 | 14) 自分のことや気持ちや考えを英語で書く    |
| 4) 文法の練習問題                               | 15) 発音と綴りとの関連づけ           |
| 5) 英語による教科書本文の口頭導入<br>(オーラルイントロダクション)    | 16) 発音練習                  |
| 6) Q&A (質疑応答) による教科書本文の内容読解              | 17) キーセンテンスの暗唱と運用         |
| 7) 長文読解問題                                | 18) 音読                    |
| 8) 初見の英語を読む<br>(教科書以外の読み物・英字新聞など)        | 19) 英語で教科書本文の要約を話す        |
| 9) 教科書本文のリスニング                           | 20) 英語での会話 (生徒同士)         |
| 10) 聞いたことのない英語を聞く<br>(教科書以外の英文・ドラマや映画など) | 21) 即興で自分のことや気持ちや考えを英語で話す |
| 11) 和文英訳                                 | 22) スピーチ・プレゼンテーション        |
|  | 23) ディベート                 |
|  | 24) ディスカッション              |

# 分析対象の質問項目

## • 英語使用割合

Q: ふだんの授業において、あなたが英語をご使用になる割合はどれくらいですか。

- ・ほとんど使っていない—30%くらい—50%くらい—70%くらい—ほとんど英語で授業している

## • 英語使用場面

Q: ふだんの授業において、次のような場面で英語を使いますか。

- ・よく使う—まあ使う—あまり使わない—まったく使わない

①生徒への指示

②生徒とのQ & A

③生徒へのコメント・アドバイス

④言語活動の説明（活動のモデル提示も含む）

⑤褒め・励まし

⑥誤りの修正

⑦発音や発話の指導

⑧文法の説明

⑨本文の内容を紹介・説明

（オーラルイントロダクションやパラフレーズ）

⑩生徒が話したり書いたりした英語のパラフレーズ

# 分析対象の質問項目

## ・ 悩み

Q: あなたは、次のような悩みをどれくらい感じていますか。

- ・ とてもそう思う—まあそう思う—あまりそう思わない
- まったくそう思わない

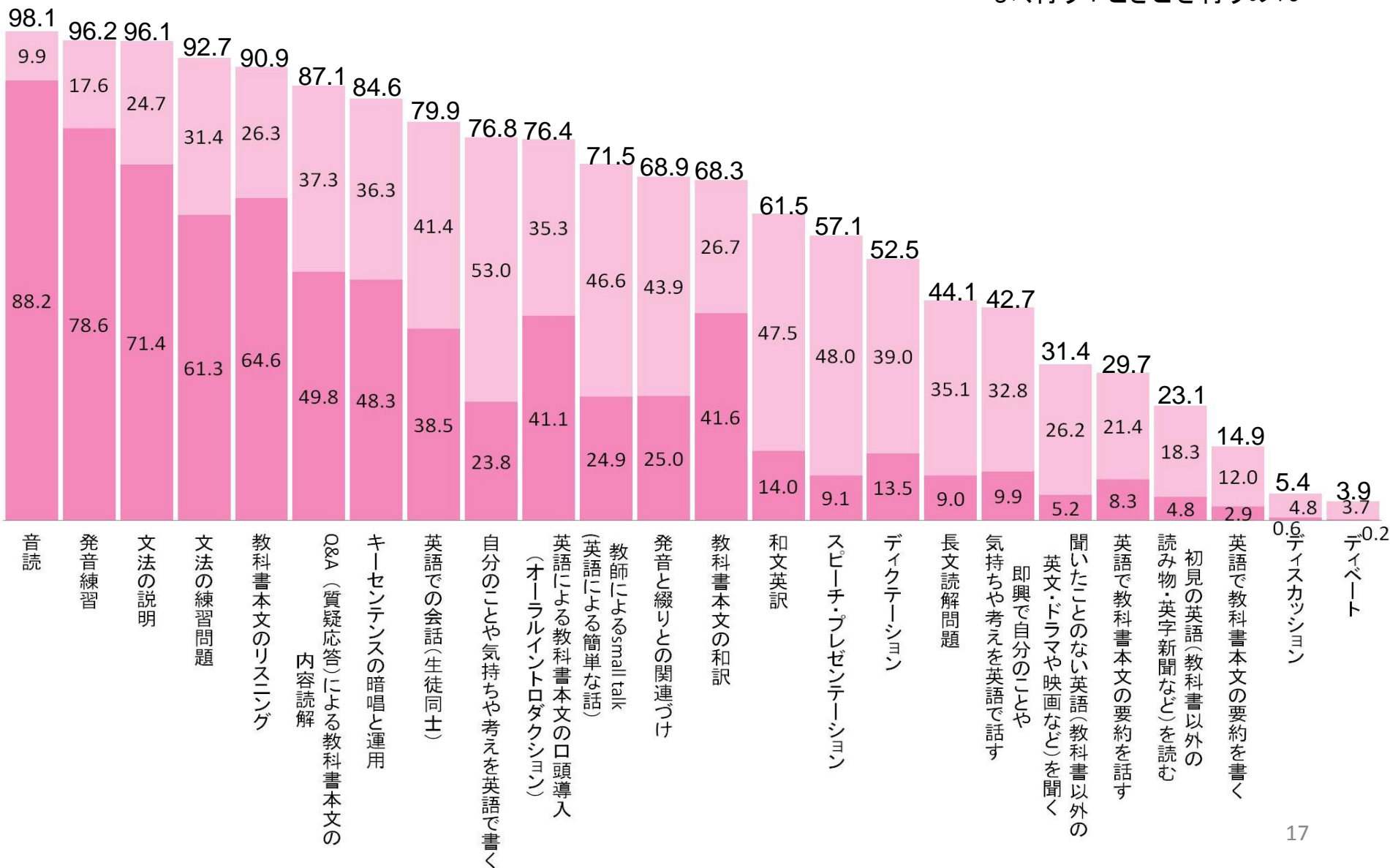
- 1)年間の授業時数が足りない
- 2)生徒の学習意欲が低い
- 3)生徒に学習習慣が身につけていない
- 4)生徒間の学力差が大きすぎて授業がしにくい
- 5)効果的な指導方法が見つからない
- 6)自分自身の英語力が足りない
- 7)英語に苦手意識がある生徒の指導が負担である
- 8)コミュニケーション能力の育成と、  
入試のための指導を両立させることが難しい
- 9)授業準備の時間が十分にとれない
- 10)中期的・長期的な授業計画を  
立てる方法が分からない
- 11)教材・教具が十分ではない
- 12)十分な研修が受けられない
- 13)教科指導以外の校務分掌の仕事が負担である
- 14)教員間のコミュニケーションが少ない
- 15)クラスコントロールすることが難しい
- 16)「CAN-DOリスト」の形による  
学習到達目標の設定方法がわからない
- 17)「授業は英語で行うこと」の  
やり方がわからない
- 18)「書くこと」の評価方法がわからない
- 19)「話すこと」の評価方法がわからない
- 20) 英語教師に求められることが多くて負担である

# 分析結果



# 指導方法・活動内容(中学校)

よく行う+ときどき行うの%



主因子法  
直接オブリミン

高度な言語活動

文法訳読

音声指導

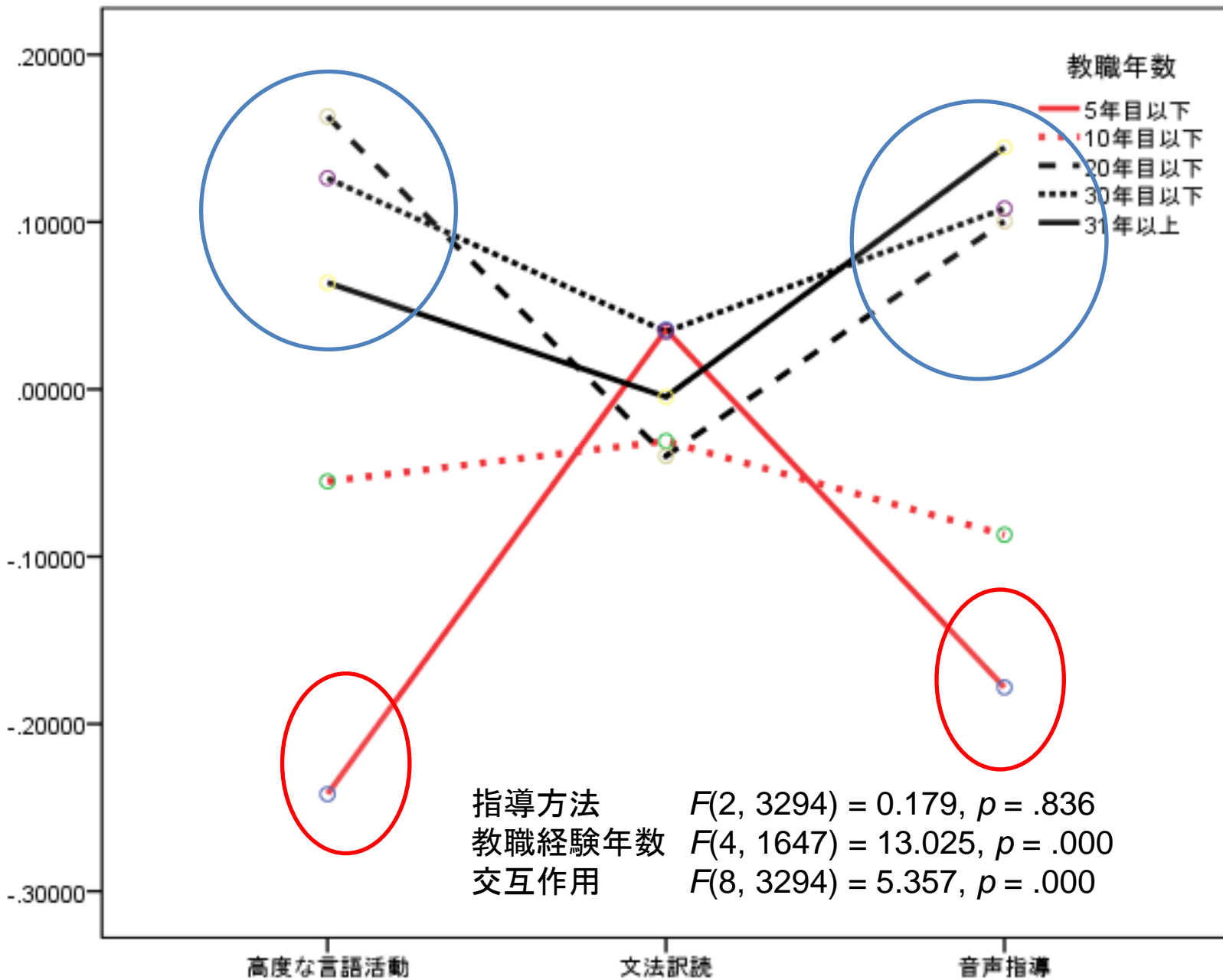
中学校

	因子		
	1	2	3
q5_2_24ディスカッション	<u>.706</u>	.002	-.140
q5_2_23ディベート	<u>.704</u>	-.009	-.139
q5_2_8指導_初見の英語を読む	<u>.555</u>	.035	-.050
q5_2_13指導_英語で教科書本文の要約を書く	<u>.533</u>	-.081	.047
q5_2_7指導_長文読解問題	<u>.448</u>	.265	-.034
q5_2_21指導_即興で自分のことや気持ちや考えを英語で話す	<u>.429</u>	-.195	.339
q5_2_10指導_聞いたことのない英語を聞く	<u>.400</u>	.008	.025
q5_2_19指導_英語で教科書本文の要約を話す	.373	-.111	.192
q5_2_22スピーチ・プレゼンテーション	.317	-.163	.275
q5_2_12指導_ディクテーション	.293	.077	.143
q5_2_3指導_文法の説明	-.086	<u>.663</u>	.150
q5_2_4指導_文法の練習問題	.044	<u>.604</u>	.064
q5_2_2指導_教科書本文の和訳	-.025	<u>.538</u>	-.042
q5_2_11指導_和文英訳	.199	.399	.052
q5_2_20指導_英語での会話(生徒同士)	.193	-.213	<u>.480</u>
q5_2_16指導_発音練習	-.192	.093	<u>.471</u>
q5_2_18指導_音読	-.147	.018	<u>.441</u>
q5_2_9指導_教科書本文のリスニング	-.012	.072	.399
q5_2_17指導_キーセンテンスの暗唱と運用	.003	.068	.396
q5_2_14指導_自分のことや気持ちや考えを英語で書く	.268	-.085	.369
q5_2_5指導_英語による教科書本文の口頭導入	.181	-.168	.325
q5_2_15指導_発音と綴りとの関連づけ	.053	-.005	.304
q5_2_1指導_教師によるsmall talk	.222	-.212	.279
q5_2_6指導_Q&Aによる教科書本文の内容読解	.154	.052	.264

因子抽出法: 主因子法

a. 12 回の反復で回転が収束しました。

因子得点の平均値



指導方法  $F(2, 3294) = 0.179, p = .836$   
 教職経験年数  $F(4, 1647) = 13.025, p = .000$   
 交互作用  $F(8, 3294) = 5.357, p = .000$

指導方法

訂正 文法訳読 ←→ 音声指導

因子得点の平均値

.20000  
.10000  
.00000  
-.10000  
-.20000  
-.30000

文法訳読  $F(4, 1647) = 0.673, p = .610$

教職年数

- 5年目以下
- 10年目以下
- 20年目以下
- 30年目以下
- 31年以上

音声指導  $F(4, 1647) = 9.729, p = .000$   
20年目以下, 30年目以下, 31年以上 > 5年目以下  
20年目以下, 30年目以下 > 10年目以下

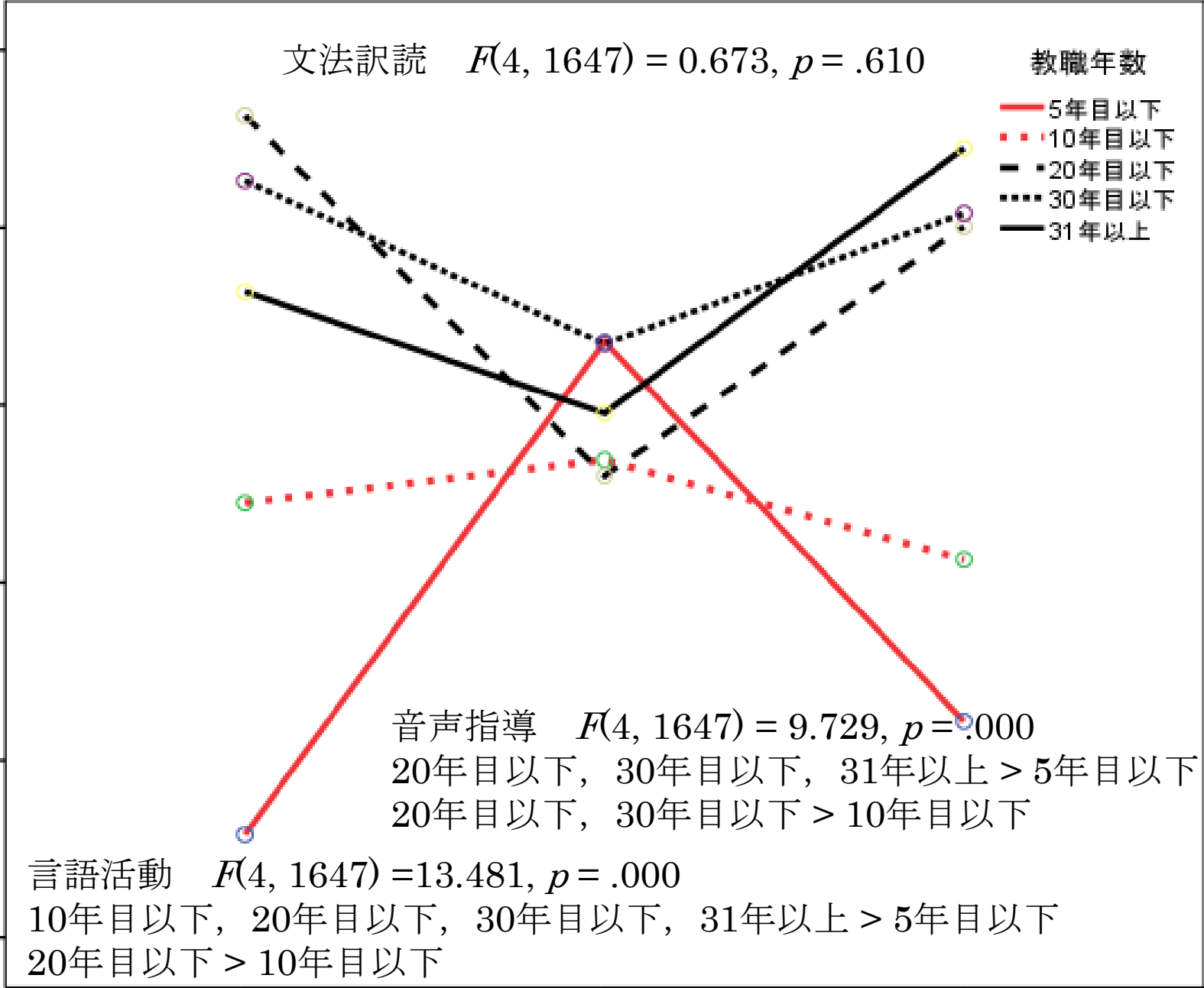
言語活動  $F(4, 1647) = 13.481, p = .000$   
10年目以下, 20年目以下, 30年目以下, 31年以上 > 5年目以下  
20年目以下 > 10年目以下

高度な言語活動

文法訳読

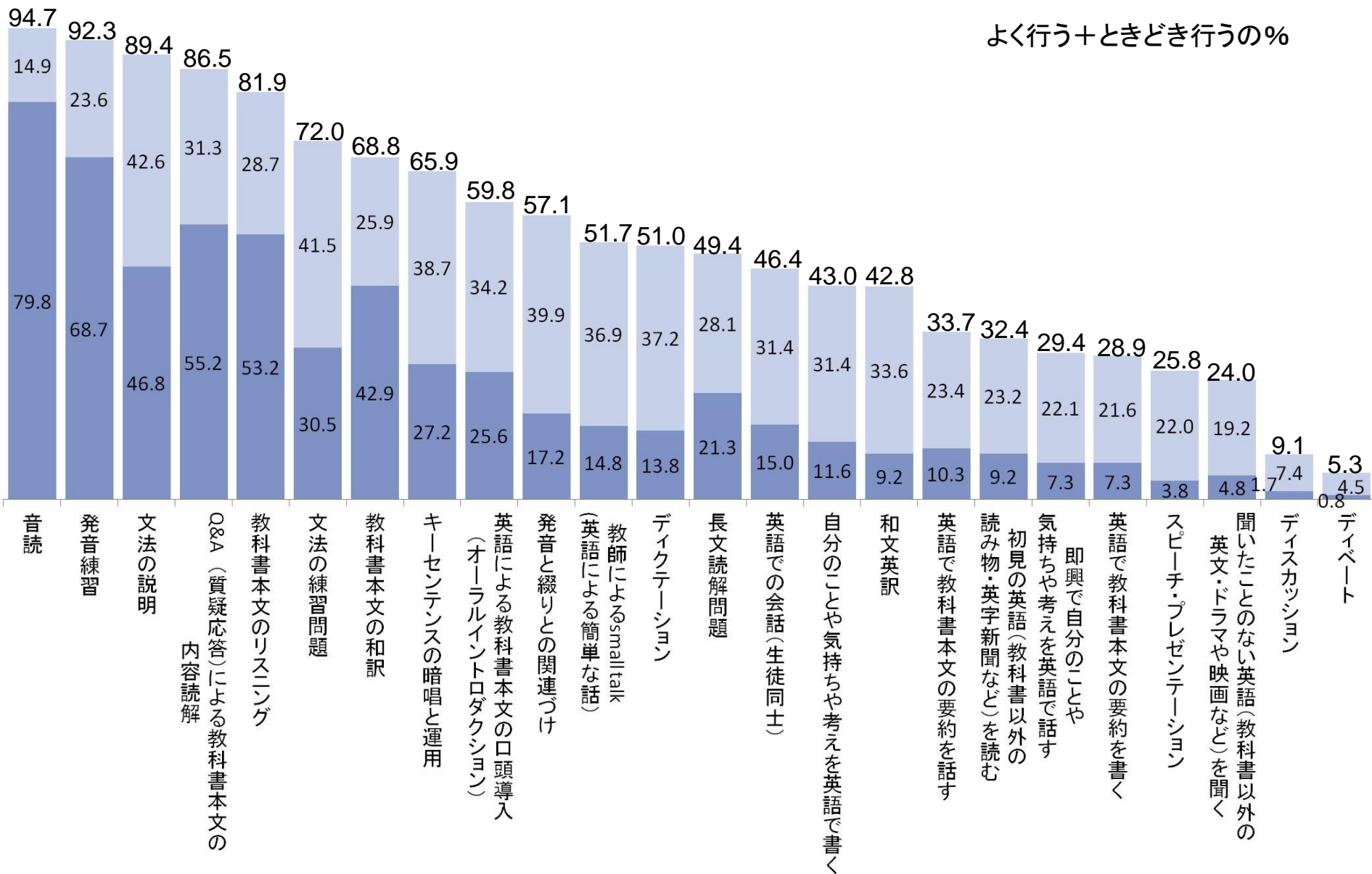
音声指導

指導方法



# 指導方法・活動内容(高校)

よく行う+ときどき行うの%



主因子法  
直接オブ  
リミン

	因子		
	1	2	3
q5_2_24 <u>ディスカッション</u>	<u>.727</u>	-.093	.125
q5_2_23 <u>ディベート</u>	<u>.687</u>	-.048	.152
q5_2_8 <u>指導 初見の英語を読む</u>	<u>.625</u>	.147	.082
q5_2_22 <u>スピーチ・プレゼンテーション</u>	<u>.581</u>	-.173	-.146
q5_2_21 <u>指導 即興で自分のことや気持ちや考えを英語で話す</u>	<u>.561</u>	-.256	-.229
q5_2_14 <u>指導 自分のことや気持ちや考えを英語で書く</u>	<u>.560</u>	-.147	-.237
q5_2_13 <u>指導 英語で教科書本文の要約を書く</u>	<u>.539</u>	-.096	-.136
q5_2_10 <u>指導 聞いたことのない英語を聞く</u>	<u>.492</u>	.076	-.016
q5_2_19 <u>指導 英語で教科書本文の要約を話す</u>	<u>.442</u>	-.174	-.220
q5_2_20 <u>指導 英語での会話（生徒同士）</u>	<u>.435</u>	-.282	-.326
q5_2_7 <u>指導 長文読解問題</u>	<u>.425</u>	.345	.100
q5_2_3 <u>指導 文法の説明</u>	-.114	<u>.636</u>	-.081
q5_2_4 <u>指導 文法の練習問題</u>	.036	<u>.531</u>	-.151
q5_2_2 <u>指導 教科書本文の和訳</u>	-.199	<u>.502</u>	.022
q5_2_11 <u>指導 和文英訳</u>	.345	.392	-.113
q5_2_18 <u>指導 音読</u>	-.143	-.039	<u>-.654</u>
q5_2_16 <u>指導 発音練習</u>	-.207	.064	<u>-.641</u>
q5_2_9 <u>指導 教科書本文のリスニング</u>	.006	.058	<u>-.446</u>
q5_2_17 <u>指導 キーセンテンスの暗唱と運用</u>	.157	.071	<u>-.421</u>
q5_2_6 <u>指導 Q&amp;Aによる教科書本文の内容読解</u>	.121	-.084	<u>-.418</u>
q5_2_5 <u>指導 英語による教科書本文の口頭導入</u>	.263	-.304	-.372
q5_2_15 <u>指導 発音と綴りとの関連づけ</u>	.060	.161	-.328
q5_2_1 <u>指導 教師によるsmall talk</u>	.290	-.291	-.300
q5_2_12 <u>指導 ディクテーション</u>	.287	.064	-.297

高度な  
言語活  
動

文法訳  
読

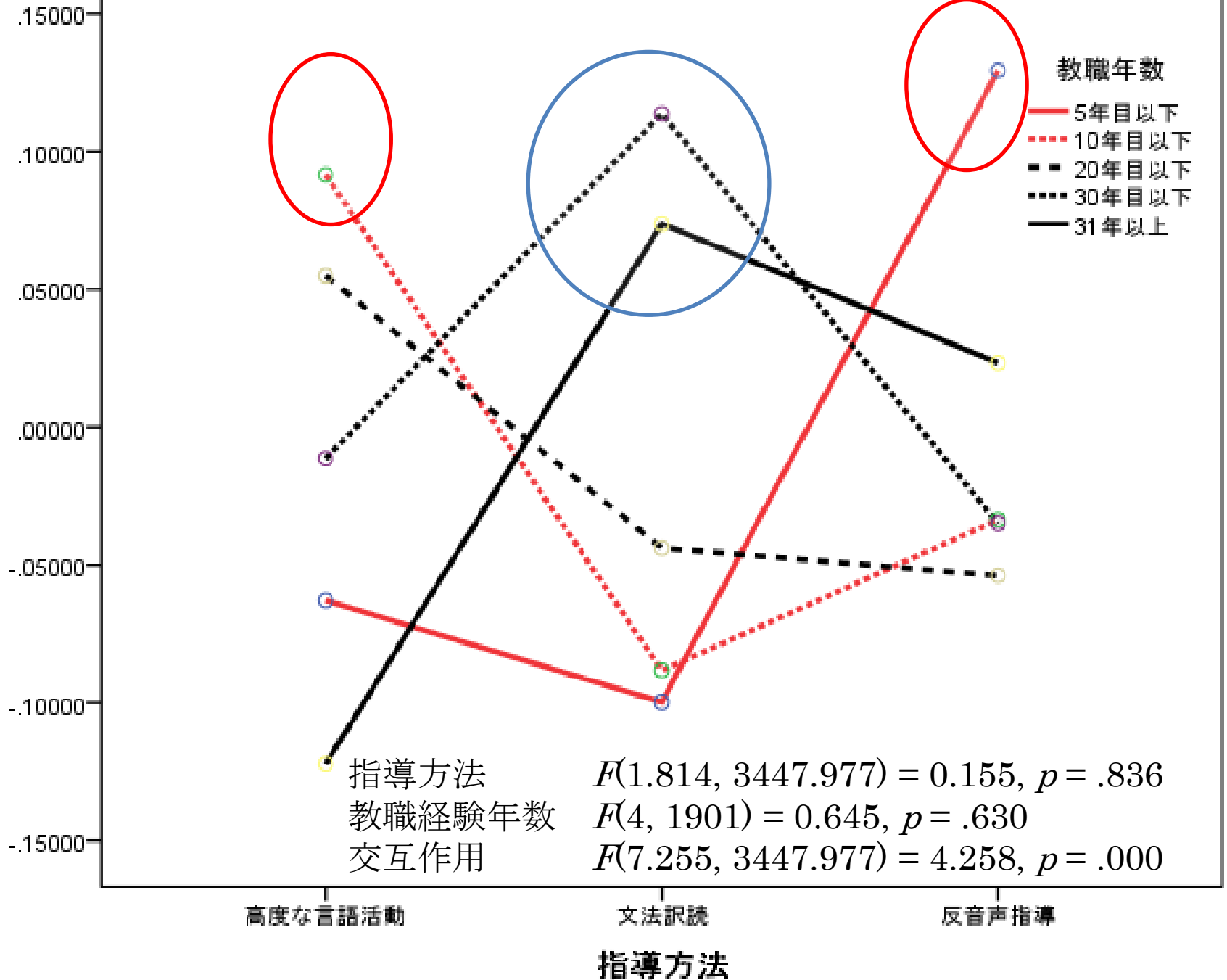
反音  
声指  
導

高等学校

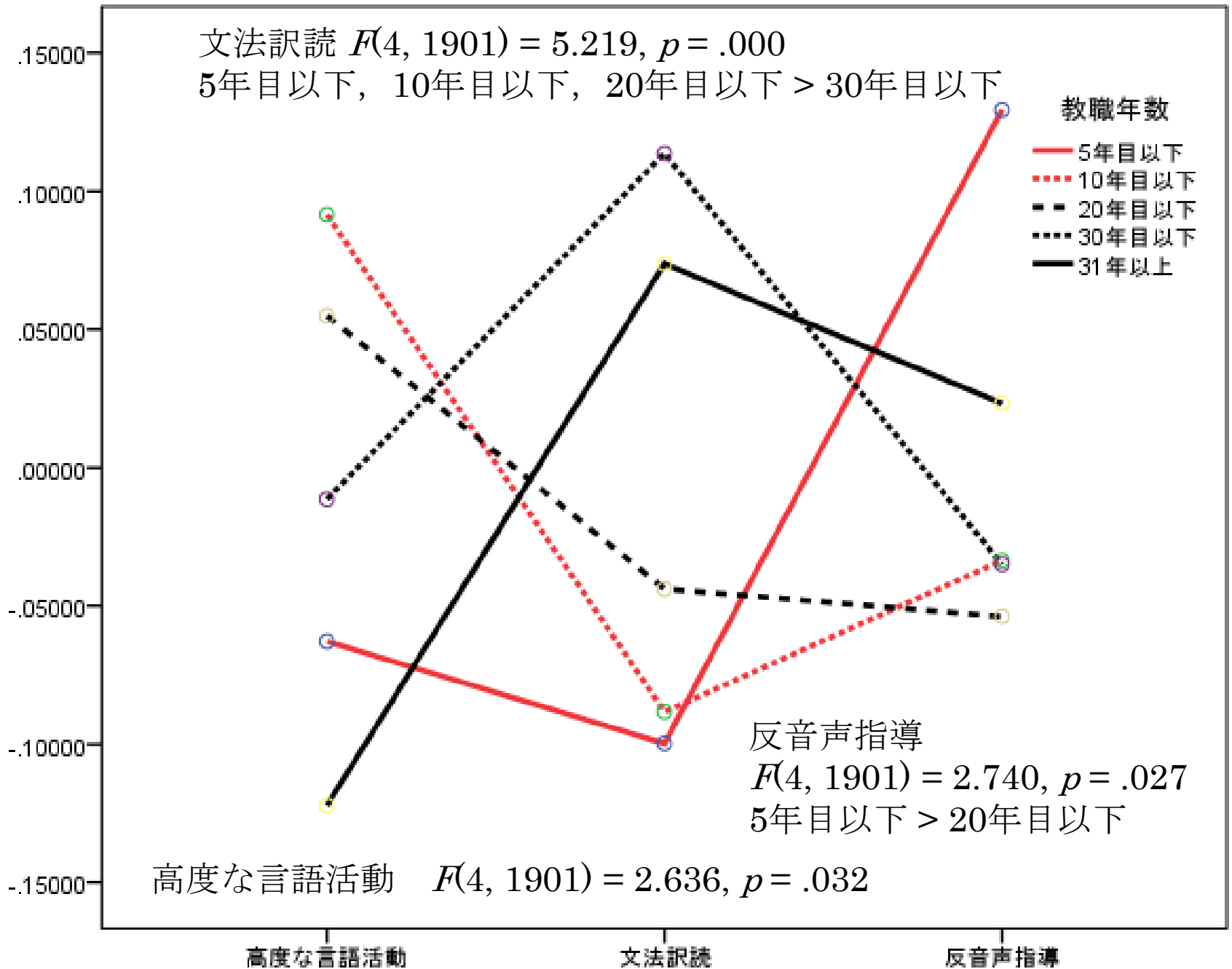
因子抽出法：主因子法

a. 22 回の反復で回転が収束しました。

因子得点の平均値



因子得点の平均値





# 英語使用割合

Q: ふだんの授業において、あなたが英語をご使用になる割合はどれくらいですか。

【全体】

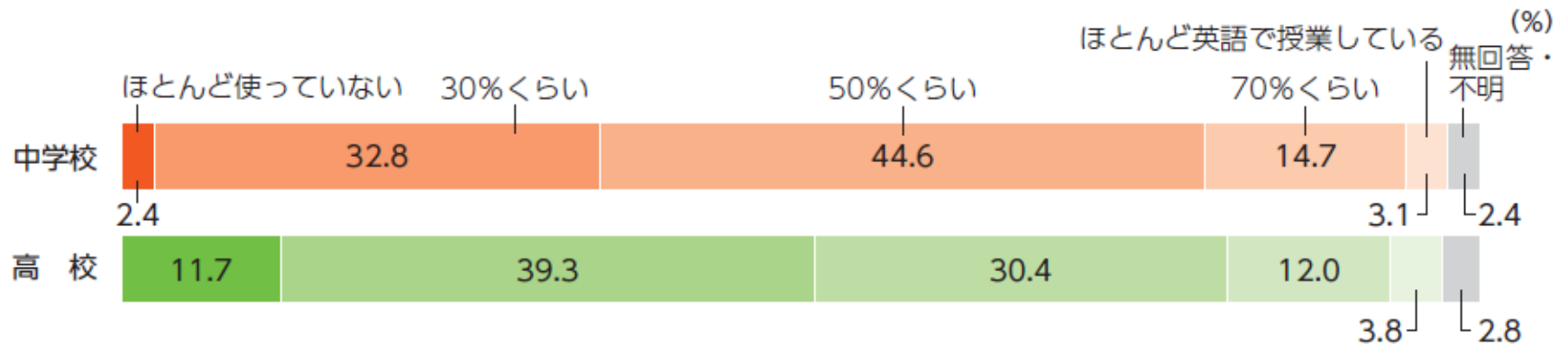
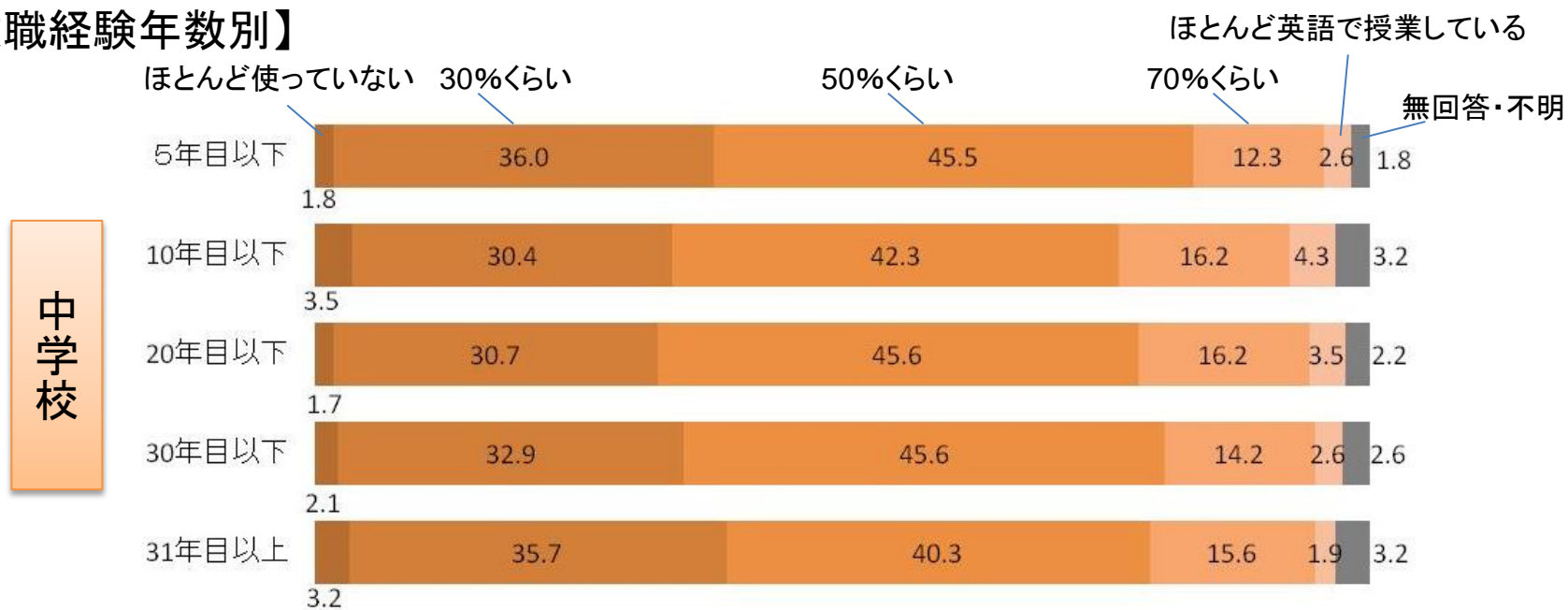


表 3. 学校種ごとの教職経験年数による英語使用割合の平均値と標準偏差

教職年数	中学校教員			高等学校教員		
	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
5年目以下	447	2.78	0.79	381	2.61	0.99
10年目以下	334	2.87	0.89	289	2.66	1.02
20年目以下	392	2.89	0.83	525	2.66	0.99
30年目以下	412	2.82	0.80	567	2.46	0.96
31年以上	149	2.77	0.83	282	2.39	0.98
総和	1734	2.83	0.83	2044	2.56	0.99

# 英語使用割合（中学校）

## 【教職経験年数別】

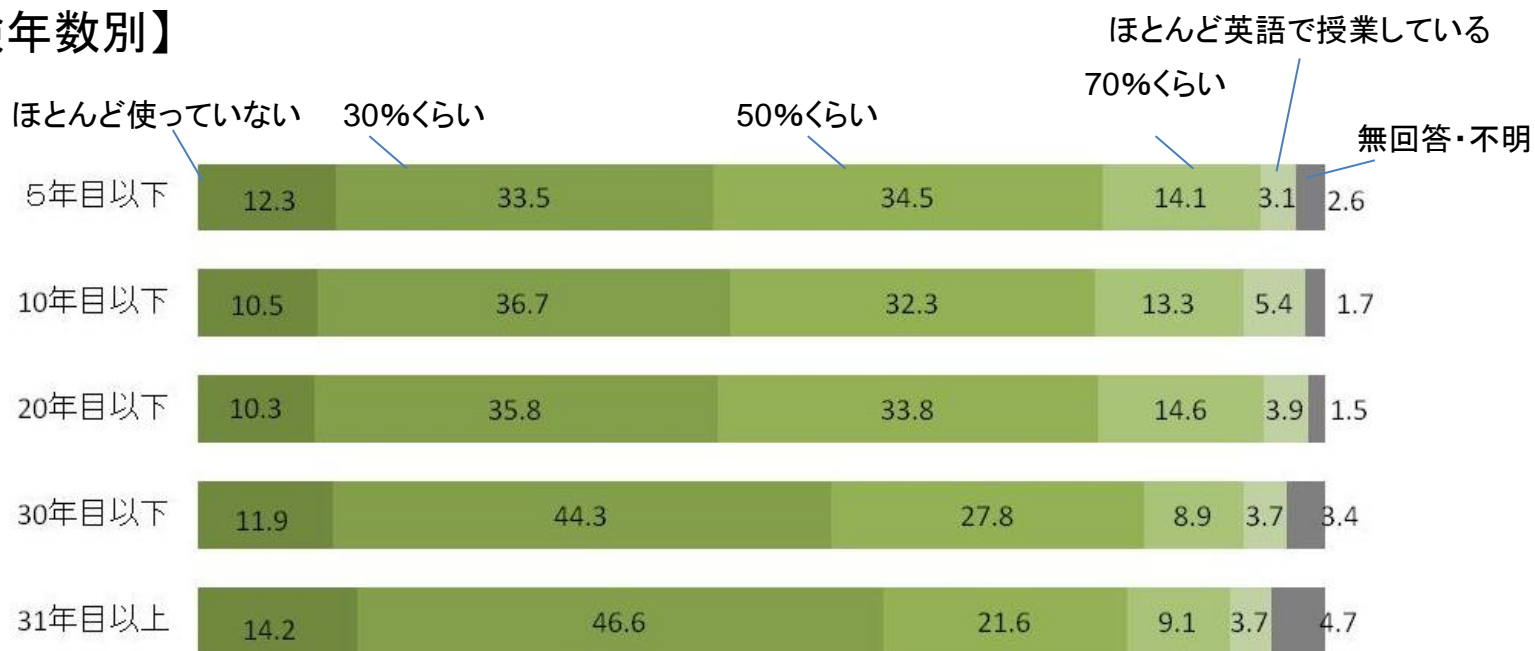


$$F(4,1729) = 1.415, p = .227$$

# 英語使用割合（高等学校）

## 【教職経験年数別】

高校



$F(4,2039) = 5.758, p = .000$

5年目以下 > 31年以上

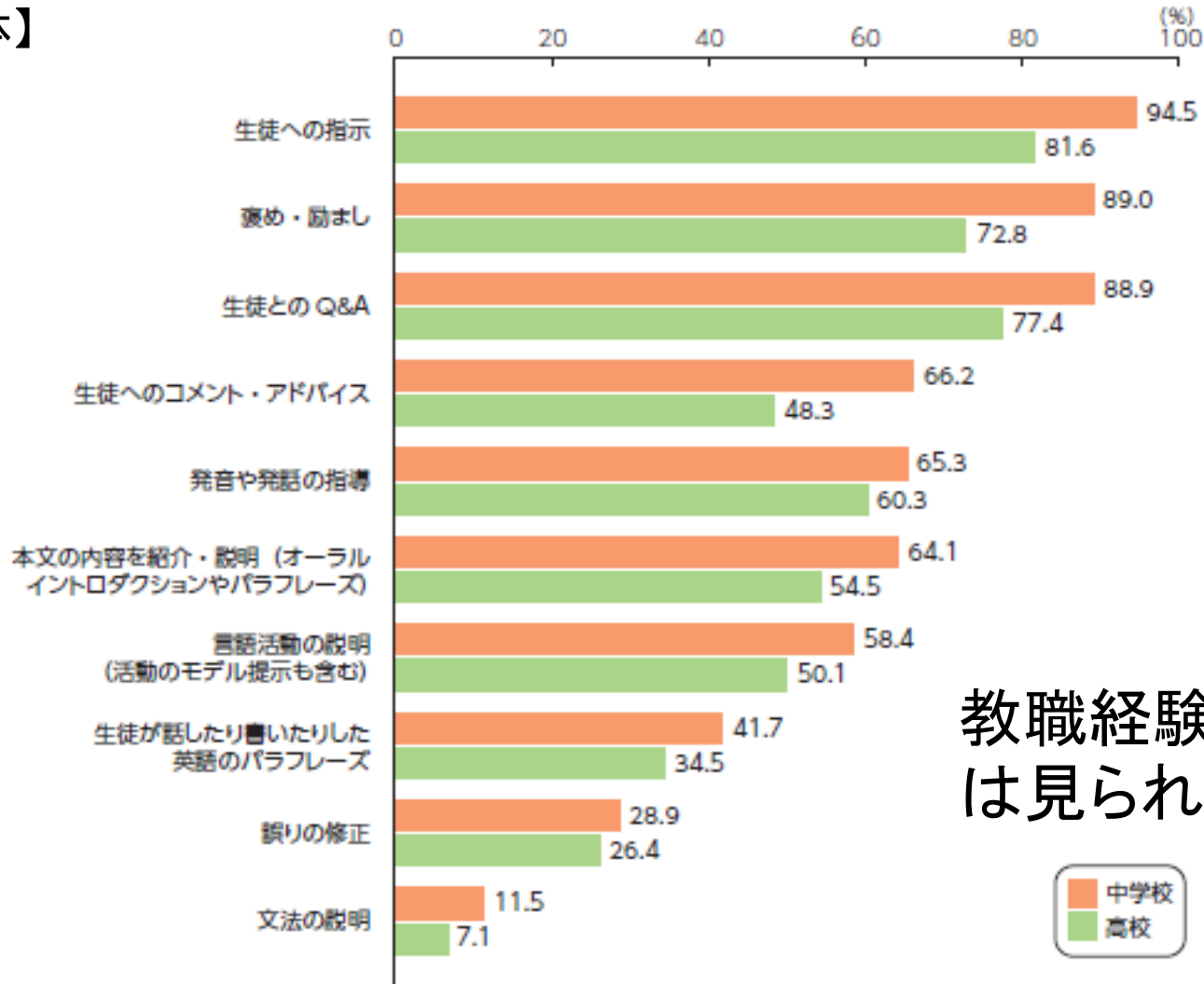
10年目以下 > 31年以上

20年目以下 > 30年目以下

20年目以下 > 31年以上

# 英語使用場面

【全体】

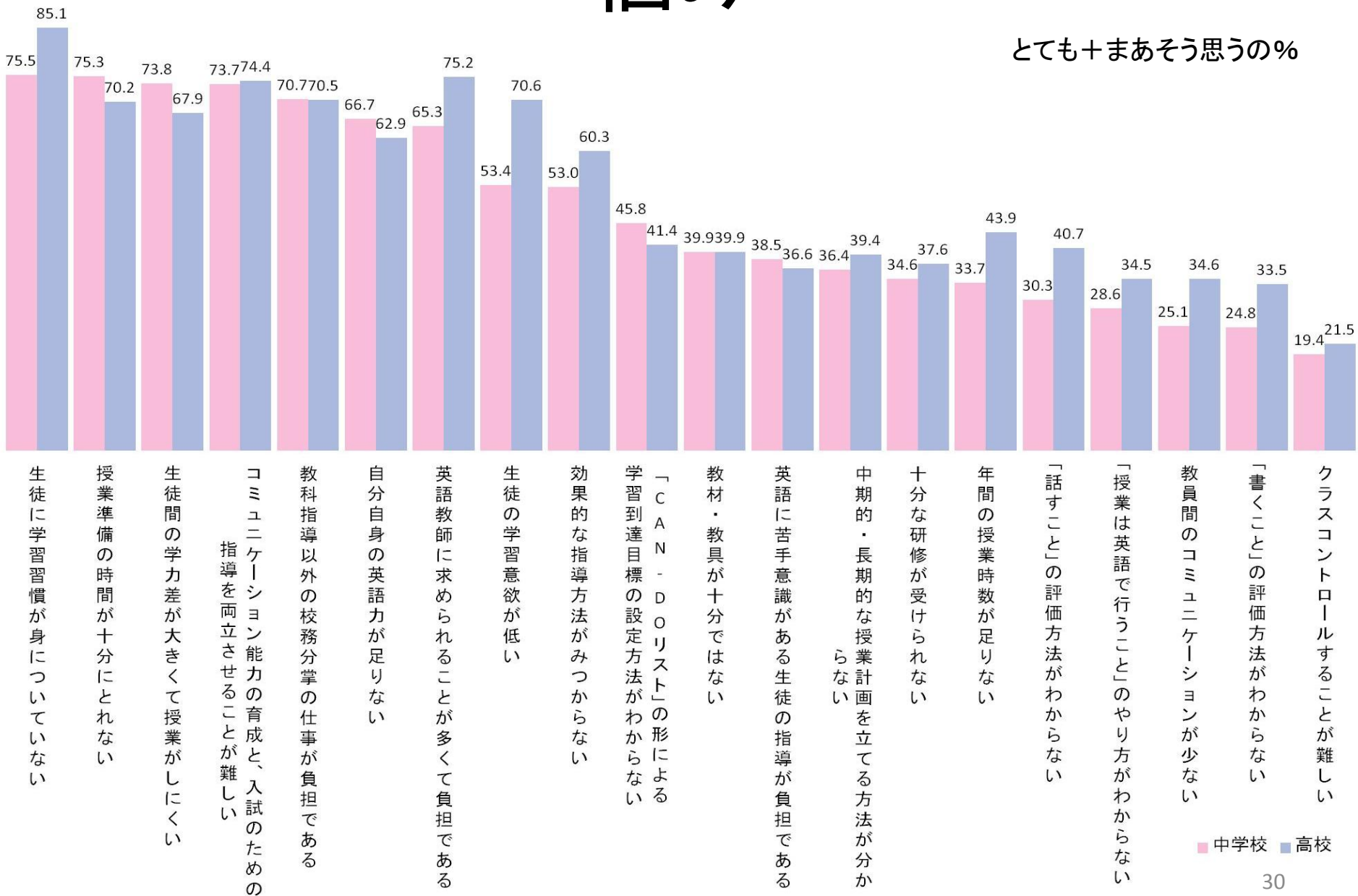


教職経験年数の違いは見られなかった。

\*「よく使う」+「まあ使う」の%。

# 悩み

とても+まあそう思うの%



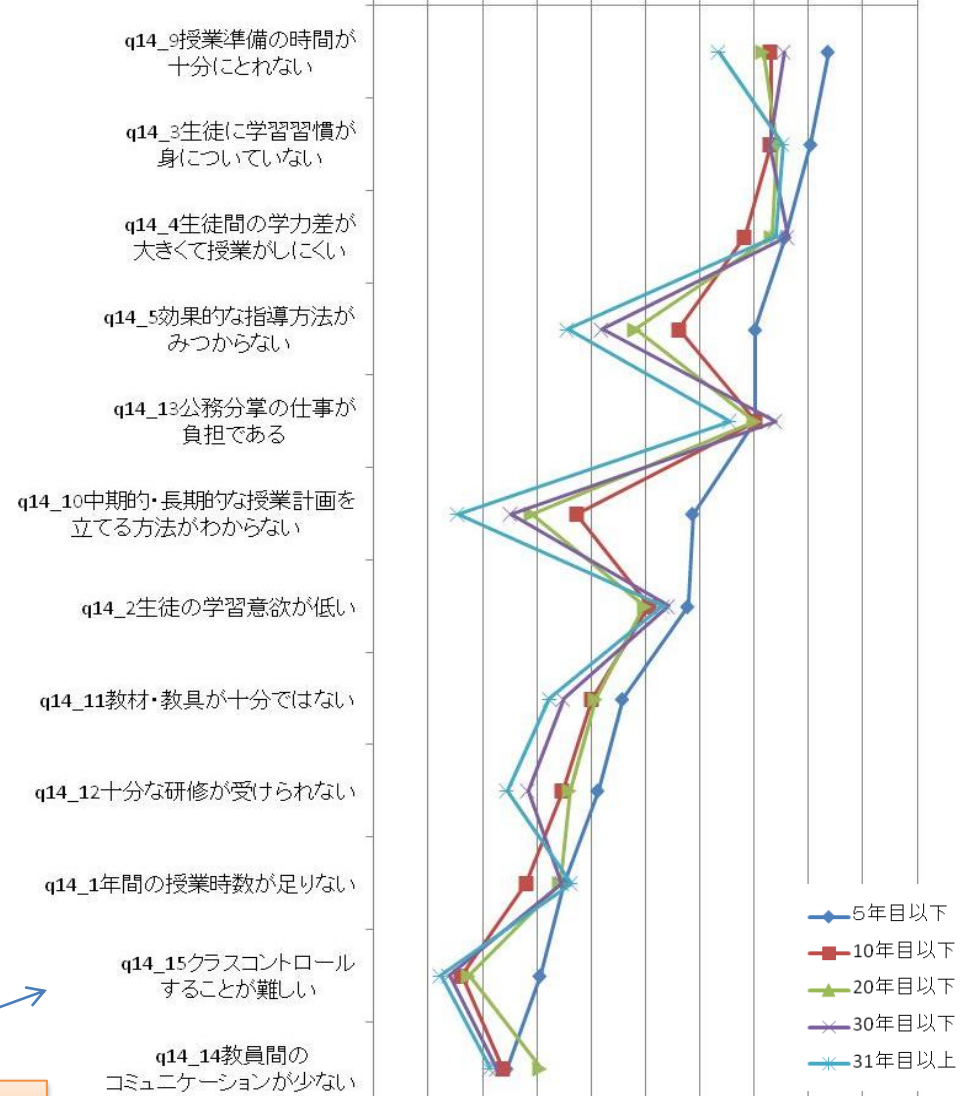
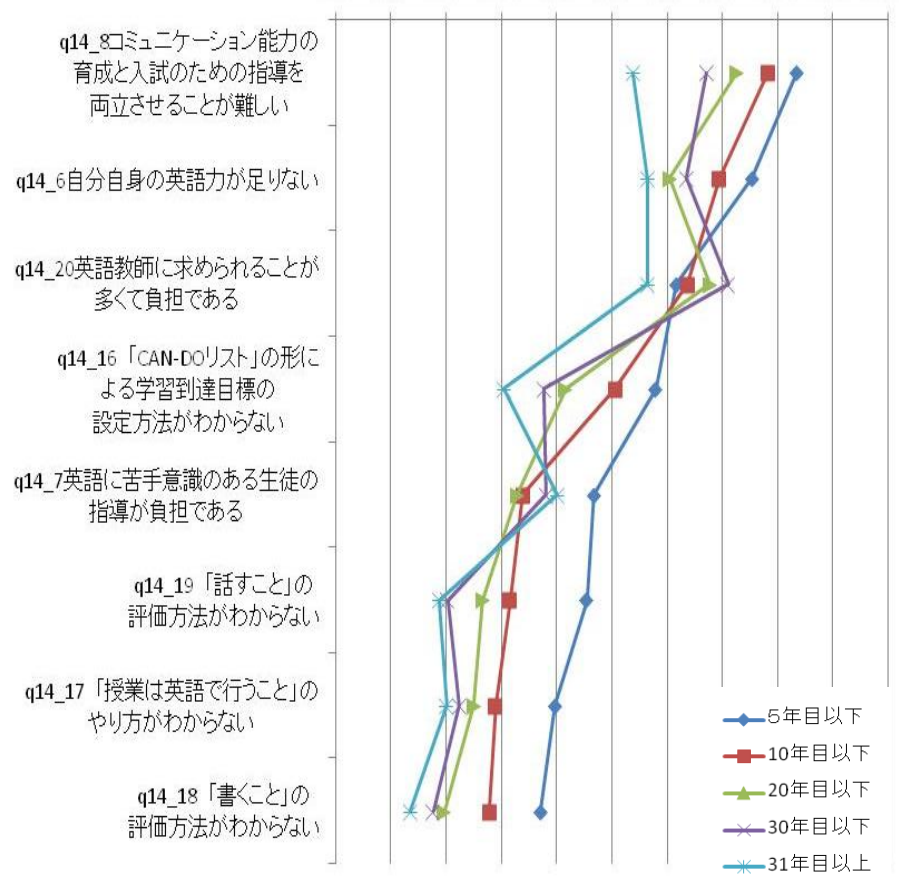
# 悩み(中学校)

とても+まあそう思うの%。

## 【教職経験年数別】

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0



教科特有のもの

教科特有ではないもの

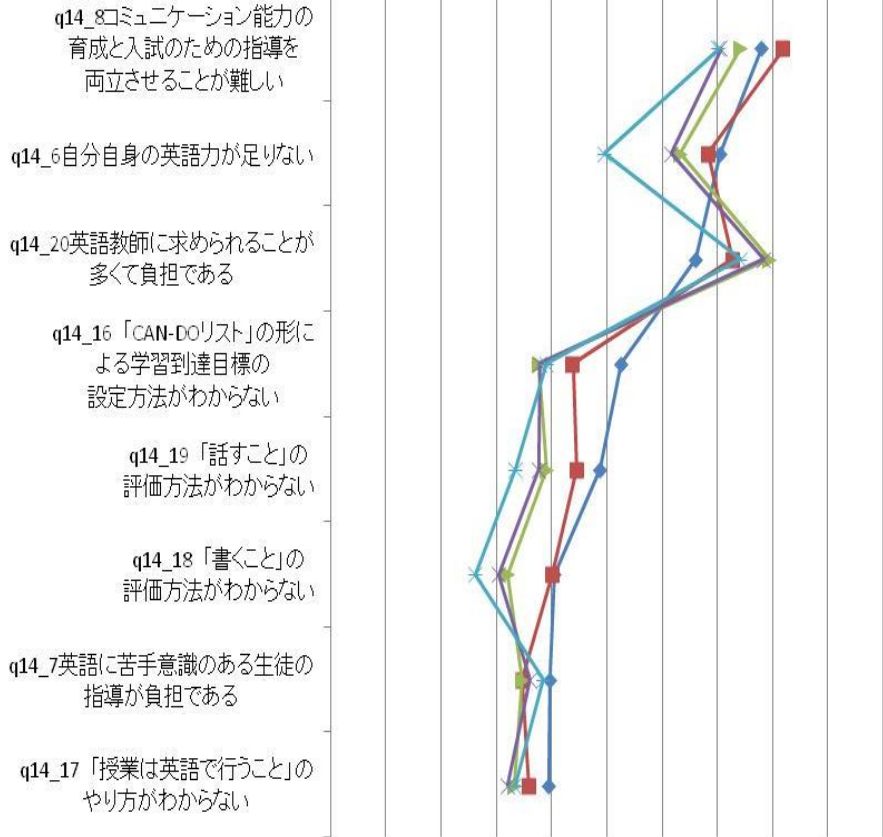
# 悩み(高校)

とても+まあそう思うの%。

【教職経年数別】

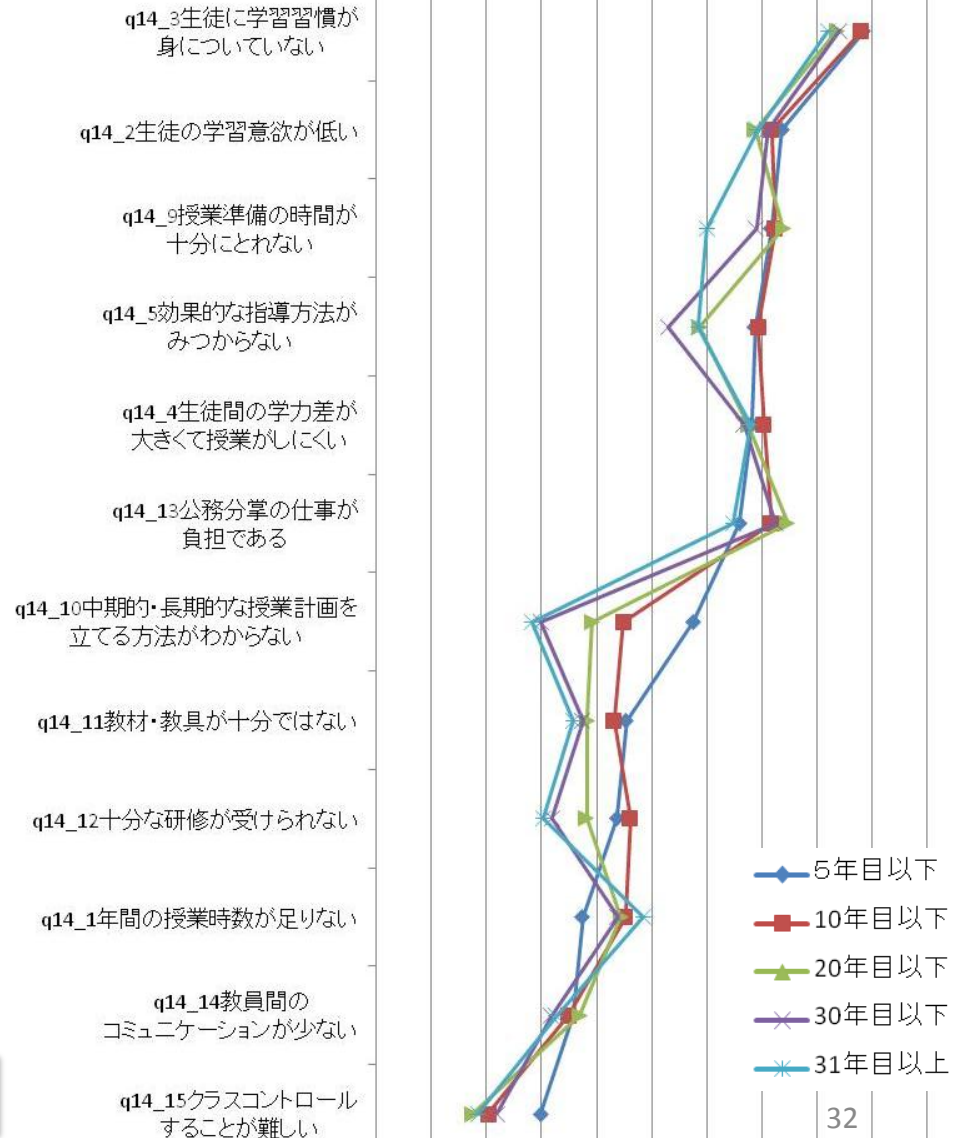
0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0



教科特有のもの

教科特有ではないもの





# 悩み

		中学校			高校		
		教職年数で 差がある	教職年数で 差がない	5年目以下 突出	教職年数で 差がある	教職年数で 差がない	5年目以下 突出
教科に 特有な もの	q14_8コミュニケーション能力の育成と入試のための指導を両立させることが難しい	○			○		
	q14_6自分自身の英語力が足りない	○			○		
	q14_20英語教師に求められることが多くて負担である	○			○		
	q14_16「CAN-DOリスト」の形による学習到達目標の設定方法がわからない	○			○		
	q14_19「話すこと」の評価方法がわからない	○		○	○		
	q14_17「授業は英語で行うこと」のやり方がわからない	○		○	○		
教科に 特有で はない もの	q14_18「書くこと」の評価方法がわからない	○			○		
	q14_9授業準備の時間が十分にとれない	○			○		
	q14_3生徒に学習習慣が身につけていない		○			○	
	q14_4生徒間の学力差が大きくて授業がしにくい		○			○	
	q14_5効果的な指導方法が見つからない	○		○	○		
	q14_13公務分掌の仕事が負担である		○			○	
	q14_10中期的・長期的な授業計画を立てる方法がわからない	○		○	○		○
	q14_2生徒の学習意欲が低い		○			○	
	q14_7英語に苦手意識のある生徒の指導が負担である	○				○	
	q14_11教材・教具が十分ではない	○			○		
	q14_12十分な研修が受けられない	○			○		
	q14_1年間の授業時数が足りない		○		○		
q14_15クラスコントロールすることが難しい			○	○			
q14_14教員間のコミュニケーションが少ない		○			○		

# まとめと示唆

- 教職経験年数による指導方法や英語使用割合の違いは、学校種によって異なった。
- 中学校
  - 指導方法・・・違いがある（5年目以下と10年目以下の教員は、高度な言語活動と音声指導の頻度比較的が少ない。）
  - 英語使用割合・・・違いはあまりない
  - 悩み・・・違いがある項目とそうでない項目がある

# まとめと示唆

- 高等学校

- 指導方法・・・違いがある(30年目以下の教員は、文法訳読の頻度が比較的多い。5年目以下の教員は、音声指導の頻度が比較的少ない。)
- 英語使用割合・・・違いがある(30年目以下の教員と30年以上の教員の英語使用頻度が比較的少ない。)
- 悩み・・・違いがある項目とそうでない項目がある

# 示唆

- 研修への示唆
- 教職経験年数に違いがないところ
  - どの教師も同様の研修が必要
- 教職経験年数に違いがあるところ
  - 年次研修など工夫が必要